



東京都は2月9日、東京・東武東上線沿線の「PRIME観光都市」今後3カ年(2024～2026年度)に「観光産業振興実行プラン」を策定した。

観光需要を取り込み 都プラン、夜間も目玉に

雷門の前でイエーイ 東京マラソン3万8000人力走

東京マラソン2024大会(東京マラソン財団主催、東京都商店街振興組合連合会・商店街連合会が後援)が3月3日、行われた。快晴のなか約3万8000人が日本橋や門前仲町、銀座など

都心部を駆け巡った。一般ランナーたちは、浅草・雷門の前で報道陣のカメラに笑顔で手を振りながら力走(写真)。海外からの参加も多く、足止め雷門を背景に自撮りしている人の姿もあった。

12月の訪日外国人旅行者数が2019年の同月を上回るほど観光の動向が変化していることがあつた。そこでプランの基本方針として①復活した観光需要の積極的な取り込み②観光における持続可能性の確保③観光産業の基盤の強化④「観光体験」として、東京の魅力を国内外に発信することを目指す。

「合理的配慮」義務に

障害者の求めに応じ

4月から各店舗で対話を

障害者差別解消法が、人は簡単に利用できて、改正された2024年4月からは、民間事業者にも「合理的配慮の提供」が義務化された。営利・非営利や個人・法人の別を問わず、店舗も対象となる。

合理的配慮の提供とは?

《例えばこんなこと》

- 飲食店で** 車いすに乗ったままテーブルに着きたいと言われたので備え付けのいすを確保してスペースを確保した
- 物販店で** 難聴の人がメモ帳とペンを持って「この商品は」と質問してきたので、筆談で説明した
- スーパーで** 目が見えない(見えにくい)人から目当ての商品の場所を尋ねられ、肩を貸して棚まで誘導した

《こんな対話は避けて》

- 前例がありません** 個別の状況に応じて柔軟に検討を
- 特別扱いです** 障害のある人もない人も同じようにできる状況を整えることが目的。特別扱いではない
- もし何かあったら** 漠然としたリスクだけでは断る理由にならない
- 〇〇障害のある人は** 同じ障害でも人によって程度などはさまざま。ひとくりにしない

ることを合理的配慮と呼ぶ(表)。ただし、本来の業務に付随するものなどに限られる。例えば、飲食店で食事介助を求められて断ることや、限定商品の抽選申し込みの手続きが難しいから確保しておいてほしいと求められて断ることなどは、合理的配慮の提供義務違反ではない。

合理的配慮の提供義務が、民間事業者が義務化されるのは今回から意識表明があった場合は、事業者側の負担が過度でない範囲で実施しなければならないこととした。行政機関等では合理的配慮の提供が当初から義務とされていた時、売り場を案内する白杖をついた人が来店し「欲しい商品がある。目が見えないので分らない」と言われた時、売り場を案内することが重要という。内閣府のサイト(QRコード)で法律の解説や合理的配慮の具体例、チラシなどを見られる。

野方が最優秀賞に

第23回エネルギーギッシュタウン



東京販売士協会(大 秀賞の野方商店街振興組合連合会(左2番目、組合本部長)と野方商店街振興組合(右2番目、組合本部長)らと、第23回「エネルギーギッシュタウン」賞の表彰式(表)。販売士の実務経験と

専門知識を活用し、「エネルギーと光る」「エネルギーギッシュ」活動を続けている商店街を表彰する。野方は、「笑い」をコンセプトに地域住民の巻き込みを意識したイベント企画や、競合商店街とは一線を画した「サファルの中野文化」発信などが評価のポイントとなった。野方は、「笑い」をコンセプトに地域住民の巻き込みを意識したイベント企画や、競合商店街とは一線を画した「サファルの中野文化」発信などが評価のポイントとなった。

2023年度 受賞商店街

最優秀賞	野方商店街振興組合(中野区)
優秀賞	三の輪銀座商店街振興組合(荒川区)
特別賞	西赤羽商店街連合会(北区)
	山崎団地名店会(町田市)

の特色を生かした食文化、ナイトタイム観光を重点的に強化した。観光関連事業者の人材確保やDXの推進なども進め、東京の魅力を海外へ発信強化するほか、ヒールやハラルなど食の多様性に対応することを目指す。ナイトタイム観光では、夜間イベントを充実させる、プロジェクト

の特色を生かした食文化、ナイトタイム観光を重点的に強化した。観光関連事業者の人材確保やDXの推進なども進め、東京の魅力を海外へ発信強化するほか、ヒールやハラルなど食の多様性に対応することを目指す。ナイトタイム観光では、夜間イベントを充実させる、プロジェクト

の特色を生かした食文化、ナイトタイム観光を重点的に強化した。観光関連事業者の人材確保やDXの推進なども進め、東京の魅力を海外へ発信強化するほか、ヒールやハラルなど食の多様性に対応することを目指す。ナイトタイム観光では、夜間イベントを充実させる、プロジェクト

の特色を生かした食文化、ナイトタイム観光を重点的に強化した。観光関連事業者の人材確保やDXの推進なども進め、東京の魅力を海外へ発信強化するほか、ヒールやハラルなど食の多様性に対応することを目指す。ナイトタイム観光では、夜間イベントを充実させる、プロジェクト

魅力ある街づくりのためには

“振興組合化”から!

■ 振興組合設立のためには?

振興組合を設立するためには、発起人が7人以上おり、次の3つの要件を満たすことが必要です

- ① 小売商業、サービス業を営む者が30人以上近接して商店街を形成していること
- ② 他の商店街振興組合の地区と重複しないこと
- ③ その地区内の組合員有資格者の2/3以上が組合員となり、かつ、総組合員の1/2以上が小売商業またはサービス業であること

■ 振興組合設立のメリットは?

- ① 人的なまとまりが強くなり組織力が強化されます
- ② 組合運営および会計が明確化され新規加入促進につながります
- ③ 法律に基づく法人であるため、社会的な信用が高まります
- ④ 国や都、区市など行政の助成金や施策が活用できます

TOSHINREN-information

詳しくは 東京都商店街振興組合連合会 組織課へお問い合わせください TEL:03(3542)0231